

令和7年度  
食品ロス実態調査  
(ごみ組成調査)  
を実施しました





## ごみの分類

調査対象ごみ（調査試料）は、家庭から排出される可燃ごみ（家庭系可燃ごみ）とする。

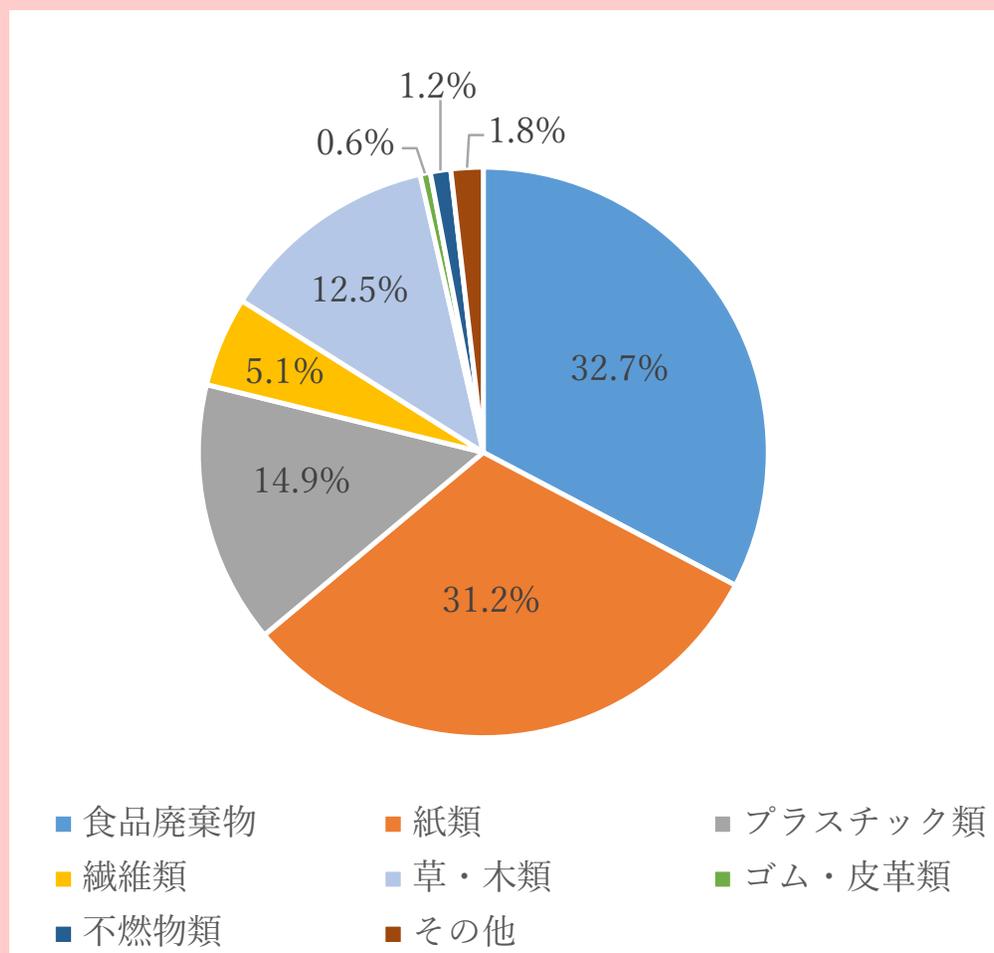
可燃ごみは食品廃棄物の他、紙類、プラスチック類（資源化できる・資源化できない）、繊維類、草木類、ゴム・皮革類、不燃物類など13品目（組成）に分類する。

## 食品廃棄物の分類

食品廃棄物は、未利用食品、食べ残し、過剰除去、調理くず及びその他に分類する。このうち未利用食品、食べ残し及び過剰除去が食品ロスに該当する。

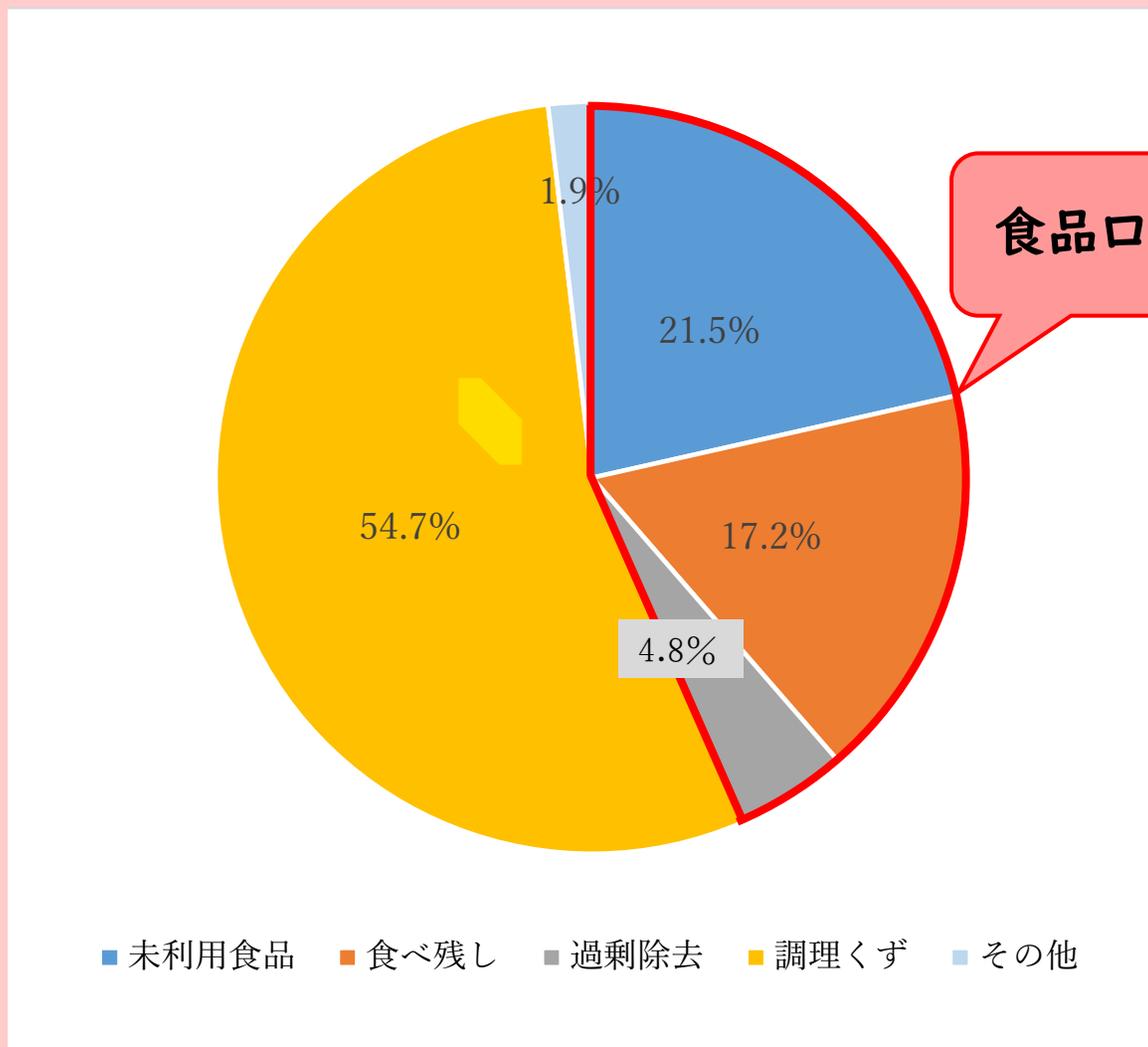
## ごみの内訳（7工場平均）

食品廃棄物が最も多く排出されており、紙類がこれに続く。両品目はそれぞれ全体の約3割を占めており、この2品目で6割強となる。



# 食品廃棄物の内訳（7工場平均）

調理くずが最も多く排出されており、未利用食品、食べ残しがこれに続く。

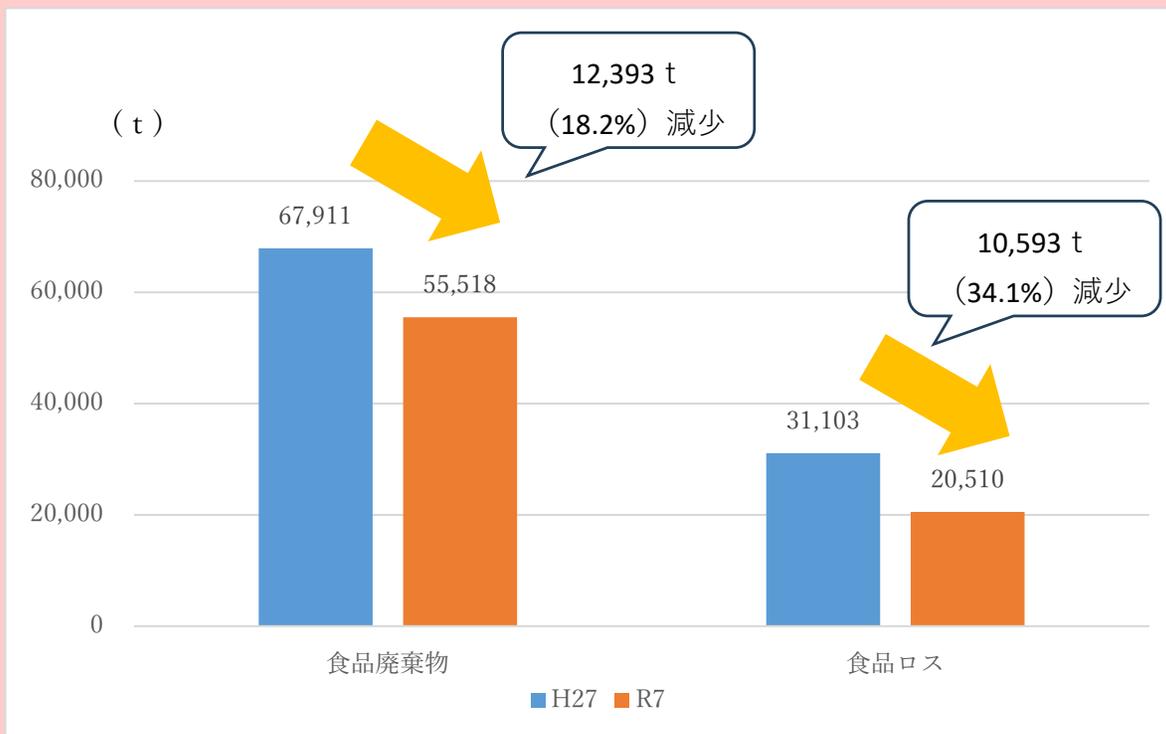


# 食品廃棄物及び食品ロスの発生量

本調査の結果、宮崎県における令和7年度の家庭系の食品廃棄物発生量は55,518トン、うち食品ロス発生量は20,510トンと推計された。

## 前回調査（平成27年度）データとの比較

前回調査に比べ食品廃棄物で12,393トン、食品ロスで10,593トン減少。



# 家庭でできる食品ロス削減

## (1) 買い物の工夫

- ・冷蔵庫内の確認、計画的な購入
- ・手前どり(期限の近い商品を選ぶ)



## (2) 保存・管理

- ・賞味期限と消費期限の違いを理解する
- ・見える化収納、冷凍保存の活用



## (3) 調理段階の工夫

- ・皮のおきすぎなど過剰除去の削減
- ・使い切りレシピの活用



## (4) 食べきりの実践

- ・適量調理



## (5) 余った食品の活用

- ・フードドライブへの寄付
- ・ローリングストック法の活用





今後も食品ロスの削減に  
ご協力をお願いします。